

回

顧

想い出多い吉祥院校

福知山市字岩間 吉良佐太郎

私は昭和三年四月から同六年三月末迄の在任で紀伊郡吉祥院（村立）小学校の最後の校長でした。村長平塚繁治郎氏助役岡崎氏学務委員深見徳次郎氏中塚儀一氏和田清吉氏教員は山本幸松氏を教頭に石井つき女史等式拾余名、それぞれ印象深い方々ばかりです。京都府視学に転任し、前後十年余りの吉祥院での生活は誠に懐しく感銘深いものがあります。

当時の吉祥院は、ほんとに静かな住み心地の良い処で、天神様の西側の芹田には清水がこんこんと湧き出で天然記念の魚（水中で巣を作って産卵する）が棲んで居ました。工場も奥村電機工場と山三麻布工場桂川染工場でしたが、児童数は年々増加するので、昭和四年には平屋建の南校舎を、モダ

ンな二階建拾教室に新築（工事施工、津田氏）して、一挙四学級増加を断行いたしました。

当時南洋で大活躍をされて居た石原広一郎氏は、ジョホール国王から勲二等と言う立派な勲章を受けられ、その披露宴も盛大に行なわれました。氏が帰郷された時、「これは一寸帰った土産だ」と仰言って、大金壹万円を学校に寄附して頂いたのです、これを以て職員室を改築し二階建の堂々たる本館が新築されました。（昭和四年）或る日京都市室町通三条にある広田様（松垣興一郎氏令弟）から電話を頂いたので平塚村長同道お宅に伺ったら、ピアノを一台寄附しようとの有難い申出を頂き、思ひもかけぬ喜びに溢れて帰校したら、ピアノは早や学校に届いて居りました。そこで俄かに学芸会を開くことにし、府から岩波視学官を招いて盛大なピアノ開きを行いました。吉祥院校にピアノが出来

たのはこれが始めてであります。又古い歴史を持つ吉祥院でありながら、まだ御真影が拝戴されて居ないのが、校下民一般の不満だとの声を耳にいたしましたので急遽鉄筋コンクリート造りの立派な奉安殿を新築して、御真影を拝戴し冷雨降りしきる冬日の夕方、村民児童共に講堂に参集して、厳肅に且つ壮厳に拝戴式を挙げたのも印象深い事です。

石原磯次郎氏が村長時代に創立されたと言う吉祥院家庭学校が、西条にありこの校長も兼任いたして居りました。石原磯次郎氏は朝鮮京城市漢江通りに於て酒の譲造業を経営され、京城市信用組合理事長でもありました。御令息は京城日報の主幹、女婿は松井京城府尹（市長）で御一家の威勢は飛ぶ鳥も落ささんばかりでした。その信用組合の経営で、吉祥院家庭学校をモデルに同型の学校が昭和五年十一月に新設され、その開校式に平塚村長と共に招かれて渡鮮し、その式典に列し祝辞を述べる光栄に浴しました。来賓には朝鮮総督齋藤実氏、京畿道長官、京城

府尹（松井氏）師団長を始め各学校長、各界の名士等多数の来賓が参列され、恰も石原氏の威勢を物語るが如き盛大な開校式でありました。翌日は府尹の自動車を運転手付きで私等二人に委せられ、朝鮮神社の正式参拝を始め、全日市内の見学に充て、頂き、晩は府尹の招待で妓生キヤンの待る料亭で、朝鮮独特の神仙爐料理の歓待を受け、土産に頂いた銀製の神仙爐は今なお我が家の家宝にいたして居ります。

昭和六年一月紀伊郡内の全村長全校長が打揃って二週間に亘る台湾旅行（団長衆議院議員田中祐四郎氏）も想い出深いものがありますが、宇佐美台湾総督の歓迎宴に列した感激はその最たるものでしよう。

こうして此の年三月三十一日を以て紀伊郡全部が京都市に編入されると共に、私は京都府視学に転任を命ぜられ、京都府視学川端孝一氏が後任校長と言う交替劇となつて、名残惜しくも吉祥院校長を辞したのであります。在職期間は僅かに三年でしたが、老練な井上

校長の後に、私の如き若輩（当時三十五才）の校長であったにも拘らず、非常な好意を寄せて頂き、私の計画をグン／＼断行させて頂いた事はほんとに有難く感謝と感激で今思い出しても目頭が熱くなります。この外鉄柱の国旗掲揚塔の建設、レコード放送設備の完成その他思い出はつきませんが、紙数の制約もありますので、ほんとに懐しいこの吉祥院校が益々御隆昌あらんことを祈って擱筆いたします。

思いのままに

高畑町 桧垣 修

吉祥院小学校がこの秋に創立百周年を迎えることになり、簡素な中にも盛大な祝賀式典が開かれることは誠に意義あることであり、学区民挙げてその喜びとお祝いの賛辞を捧げたいものです。

このおめでたい創立百周年を記念して過ぎし昔を慕いつつ思いのままを綴るのも嬉しい限りです。例えば五十年余り前の吉祥院は村であり、西に桂川東に天神川

（西高瀬川）に挟まれた広々とした地域に一面に拡がり続く田園地帯でした。そしてその中に農家の部落が点在していました。田は牛や馬に鋤をひかせて耕していた農家もあってのどかな平和な吉祥院村でした。でも六月ともなれば麦のとり入れから田植と仕事が続ぎ、早朝より夜おそくまで働いておられたものでした。

今日の吉祥院は昔の面影はない市に編入されて以来耕地整理、区画整理、都市計画と一変して大都市京都の一角を占めているようになったとは五十年余り前に誰が予測したことでしょう。

五十年前の面影を残すものは殆んど無くなっています。私達の通い慣れた校舎もあろうはずはありません。その頃私達は一年生の時には読本（国語）算術（算数）など石板に石筆で文字を書いたり計算したものです。鉛筆で字を書くノートもざら紙のうすい粗末なもので教科書とて黒やうすみどり色の表紙がついていてきれいな色刷りのものといえば図画の手本（教科書）だけでした。私の楽しい思い

出は天神川で遊んだことでした。現在のような汚水の川ではありませぬ。五十年昔の川は北は西京極から吉祥院を通り上鳥羽の方に流れていた川、広々とした田や畑を縫って蛇行していました。すきとおったきれいな水が所々の湧き水といっしょになって流れ、川底の砂や小石の間に生えた藻の陰を小鮒が群れなして泳いでいたものです。もちろん鯉や鰻やなまずなどもとれたものです。どぶ貝といつて色の黒い貝がらを持った貝やかになども住んでいたものです。

夏なんか上流に夕立があれば川水は黒茶色に濁り鯉や鮒がぶかぶかと浮きつ沈みつつ流されて行くのを子どもも親も用意してある網で大勢の人々が掬いあげたものです。それにも増して楽しかったことは夏学校から帰って泳ぐことでした。六地藏巡りで賑う天神橋の上から得意げに跳び込んだものです。夜は柳や桜や桑の木の植えられた涼しい土手にホタルを追って遊んだこともついこの間のようになつかしい思い出です。

もう一つ忘れられないことは西

国街道に馬車が通じていて、度々母や父に連れられて乗ったことです。京都から大阪に通ずる西国街道が面影の一部を残していることはなつかしい。

今の洛陽高校前の電停から西に伸びて西茶屋、新建を経て久世橋に通ずる道路です。道路は現在舗装されているとはいえ、道巾などは全く昔のままで道の両側にある商店の家々も後に建てられたものが多く。所々に昔のままの古い家があるのもなつかしいです。当時は京の街へ行くには七条大宮まで徒歩で往復したものです。もちろん九条通りや西大路通りなんかはありませんでした。当時吉祥院の人々はこの西国街道をいけば往復した道であり、久世、大藪、向日町等の西の人々もみなこの道を利用したため終日賑わっていたのです。雨の日ともなればぬかるみの道となり牛や馬のひく荷車の間を歩くのも大変なことでした。現在建てつまった賑やかな商店街になったのも当り前のことだとも云えましょう。久世橋、七条大宮間をラッパを吹きながら通ってい

た乗合馬車にもう一度乗車してみたいものです。

このように昔の思い出を思うがままに書き綴る間に原稿用紙もなくなつて参りました。拙ない文で意味のないことを書き汚しましたことをおゆるしく下さい。

学童集団疎開

元校長 岡田脩夫

長い教員生活の半分近くをお世話になった吉祥院校の創立百周年を迎え、色々の思い出がなつかしく私の脳裏によみがえってきますが、中でも集団疎開は忘れることのできないものの一つです。

昭和二十年三月二十八日、本土空襲の危険からのがれるため吉祥院の学童約六十名（四年から六年まで、兄弟のある子は三年も参加したと記憶します。）は、両親のひざもとを離れ、遠く船井郡の竹野村に疎開しました。疎開したのは、空襲の危険度の高い東海道線沿線の九条・定成・井ノ口・西ノ庄・三ノ宮等の子どもでした。吉祥院校の長い歴史の中にいまだか

つて無かつたでき事だけに、親たちの心配子どもたちの不安はたとえようもなく、学校あげてこの事に当つたわけです。私は分団長の使命を荷ないその責任の重さを感じながら、辻・福田・片岡先生、新しく採用された四、五人の寮母さんと共に、子どもたちを連れて現地向かつたわけです。

児童は、竹野村の大通寺に約四十五名、笹尾寮（区の集会所）に約十五名と二つに分宿しました。子どもたちは、朝早く起床してお寺の庭に整列し、朝のあいさつをし、元気に体操をしてから朝食をとりました。学習は竹野小学校へ寮から通学して村の子どもと一緒に勉強しました。辻・福田・片岡先生は学級を担任されました。なお先生の手は足りないもので、本校から入れかわり応援に来てもらいました。

学習を終えて寮へ帰ってきた子どもを先生たちが連れて、よくタニシ・ワラビ・カニ等を取りに行きました。そのタニシを生じょう油で煮たものが、夕食のたいへんなごちそうでした。また六年生が

登校の時、長台車をガラガラ引いて行って、帰りに農会で大豆粕の配給を受けて車に積んで持ち帰りご飯に混ぜました。そのご飯もつけ盛りで副食物も少量でした。今の子どもには想像もできない粗末な食事でしたが、でも子どもたちは、黙ってそれに耐えていたので

す。私の仕事の一つとして区長さんの家をまわって野菜の供出をお願いすることがありました。しかし吉祥院から竹の子・野菜等を運んでいただいていた事や思い出します。また竹野村の方からも暖かい支援を受け、近所のお宅で子どもたちがよく入浴させてもらった事も記憶しています。一日の中、子どもたちが一番寂しがるのは就寝する時で、両親を思い出すのでしよう、しくしく泣きたす子もありました。

私の一番心にかけてことは、何と言っても児童の健康でした。あの夜N児が高い熱を出し、雨の降る中、暗いでこぼこだらけの野道を、ずぶぬれになって自転車で村のただ一人のお医者（女医）さんの所へ走つたことを思い出しま

す。またシラミがたくさんついて、ドラムかんで衣類を煮沸しましたが、こういう役を引き受けたのは六年生です。

六年生といえは一番上の学年だけに、掃除をしたり色々手伝いをしてくれました。また下級生の世話もよくしました。取ってきたカニをくし（こうもりがさの骨）にさして焼いて、それを下の子に与えたりする涙ぐましい姿もその一つです。

子どもも教師もたいへんな苦労でしたが、師弟同行、寝食を共にした毎日、意義ある体験だったと言わねばなりません。しかし二度とこの様な事を繰り返してはなりません。

昭和四十一年、再び校長として吉祥院にお世話になり、過ぎし日共に疎開した児童がrippばな父となり、その子が学校へ来ているのを知り、今昔の感ひとしおでした。吉祥院校は今やその児童数千七百を数え、京都市屈指の大規模校です。なつかしい思い出の中にその伝統と歴史をしのび、今後の精精発展を念願して止みません。

育友会の歩み

(発足から現在迄)

(記念誌委員会取材グループA班)

一八九二年アメリカに於てアリス・バーニー夫人が「子供の幸せを願う全国の母の祈りを一つに」という提唱をして「全国母の会」が誕生したのが始まりといわれている。

京都に於ては昭和二十二年アメリカ駐留軍第一軍団民間情報教育課(CIE)長アンダーソン氏がPTAつまり「両親と先生の会」を紹介したのがそもそもの始まりでありその当時すでに京都ではそれを取り入れようとする気運の胎動もあり早速アンダーソン氏の紹介に呼応して宣伝啓蒙運動が始まった。そしてこの会を「育友会」と名づけた。

吉祥院校に於てはこの趣旨にもとづき昭和二十二年六月十一日、保護者会総会を開き各学級毎に育友会の精神と組織につき懇談し全面的賛同を得結成準備のための、委員を各学級二名宛選出した。

六月二十五日級委員会を開催旧

教育後援会ならびに保護者会幹事と懇談両者の発展的解消となり続いて初代会長に平塚久吉、副会長

齋田久栄両氏を選びここに保護者会長安田治氏より戦後の混乱の中この声をあげた育友会長平塚久吉氏にバトンが渡された。

七月十五日発会式が華々しく行なわれ会長挨拶、結成経過報告、規約、予算等審議に続き軍政部アンダーソン氏及陸軍伍長の紙芝居による主旨講演会を開きここに同会の意識深い発足をした。

この時代は主として学校の施設設備等の充実に重点をおいたいわゆる経済面からの協力であった。終戦後地方自治体の教育財政が、極めて困難な時、日本復興の願いを教育によせて学校への経済的援助を重視したのはその時代の要請にそうものであり、それによって学校設備が急速によく変わったのは事実である。その資金作りに運動会等には売店を開き、廃品回収、バザー、映画会等が行われた。当時の役員の方達はその時の事をふり返り「売店を出してラムネやお菓子を売った時、ラムネの栓

を抜くのがこわくて、それでも売残したらいかんと客席を廻って売っているうちに上手になって……。又大掃除前の廃品回収は暑い最中モンペ姿にリヤカーをひいて集めに歩き、それを値のよいところをさがして売りに行ったり映画会を開いた時もただ見の人を見張ったりそれはもう毎日身体を粉にして少しでも子どもの為にと皆で働きました。又給食も脱脂粉乳の固まりをけずってくださりかす仕事から食器の後始末まで、今から考えたらようあれだけしてきたなあと思う」と語っていられた。又校下の事業所、商店等に育友会の経済的援助をお願いする、賛助会員を募集し校下の皆様の御協力で育友会の陰の大きな原動力となつてゐる。

その後社会情勢も変り会本来の目的性格を再認識し、学校援助のあり方に反省が加えられるようになった。

そして二十五、六年頃区民美術展が錦秋の十一月行われた。写真、書、絵画、手芸、生花等区民の文化向上のため、そして広く

南区民美術展にまで発展させたい意向だったが三十九年を最後に中止になった。

この頃会の機関紙「硯の水」が発刊のはこびとなった。菅公ゆかりの井「硯の水」を題名として今日迄続き四十七年第一号をもって百二十二号を数えるに至り、会と会員を結ぶパイプ役をはたしている。子ども達の体位向上とスポーツ精神涵養の目的で分団別球技大会も行われており、三十五年三十六年の二年間は少年補導委員会と共催したがその後は少年補導委員会が行っている。

又二十六年まだ混迷を続けている時コーラスを通じて家庭を明るくしようと二三の区の一部で育友会のお母さんコーラスが生れいろいろな機会に出演した。これがPTAコーラスの胎動ともいわれている。本会も二十五六年頃より歌の好きな者が集まって歌っていたが三十一年市教委の勧奨で全市のPTAコーラスが結成され本会も十二月十五日結成をみた。三十二年から全市交歓会のはかに各区別の交歓会も行われ円山音楽堂から

京都会館と会場も変り昨四十六年で第十九回交歓会がもたれた。

三十七年には九十周年事業としてプール建設が校下をあげて行われ三十八年八月三十日竣工式が行われ親子待望のプールが出来、子どもの夏の生活にかゝせないものとなった。

三十年頃社会見学も行われ、コース、社会見学、新聞等会員の教養部門に重点がおかれるようになった。

市長はかねて「市民にスポーツと音楽を」という提唱をしていた折、三十九年東京オリンピックが開催され、日本女子バレーチームの目ざましい活躍に刺激され市長の提唱とあいまって他の学区にさきがけて三十九年秋バレー、ピンポン、テニス等の体育部が結成された。スポーツを通じて「若さと健康を」そして会員親睦を計ろうと今日迄続けられ、南支部及隣接学区交歓会と盛大に行われている。

四十年秋には又バザーが行われ教育設備の充実に校下こぞっての行事だった。

四十一年には悲しい事故があった。二名の児童が桂川で溺死するという痛ましい事件だった。その為四十年から桂川周辺をパトロールし二度とこの悲劇をくり返さないようにと子どもにも親にも注意する意味で毎土曜地域補導委員がパトロールをしている。それから六年再び悪報が伝えられた。もう二度とくり返されない事を祈る。

この年ベルマークの蒐集が始められ少しでも学校設備に役立てばとの願いから集められ今までに、テレビ、八ミリ映写機を入手した。又家庭教育学級ももたれ会員の自己研鑽の場として多の人が勉強した。

ふり返ってみると児童生徒の健全な成長を願って終戦後の混乱と窮乏の中にあえいでいた子ども達を一日も早く救おうという当時の人達の悲願と日本人の根強い民族意識がアメリカ文化を消化し四半世紀にわたって発展した育友会をみると、先人達の苦勞を思うと共に、学校後援会的要素から脱皮して己れの教養を高め家庭と社会をつなぐ窓口として社会的精神を太

らす場として政治的、宗教的、營利的な意図を一切排し、学校との関係を緊密に、よりよい家庭、よりよい社会の建設をめざして今後共発展を願うものである。

想い出あれこれ

「夢のつづき」

(記念誌委員会取材グループA班)

明治三十年頃吉祥院尋常小学校は門を入ると正面に三尺程の楠と杉の木が並んで植えてありました。

東に本館、南に村役場の建物があつた。校門の横には駐在所があり北側に教場があつた。その他築山や大きな池がありました。

この時はまだ四年制でしたが、たしか明治四十一年に六年制になりました。その当時の服装はかすりの着物に三尺帯下駄か草履ばきで本は風呂敷に包むか又肩からかける鞆でした。高等科になると袴を着用し、尋常科の子供も三大節には袴をはきました。遠足の時などお弁当を風呂敷につゝみ肩から斜にせおって乗物とてなく歩いて

行ったものでした。勉強の内容は読本、書方、算術、修身、図画、手工、高学年になって地理、歴史、で修身は修身室(作法室)体操も体操場(講堂)で習いました。「君に忠に親に孝に」ととてもやかましく言われました。修学旅行は国鉄参宮線に乗って二見ヶ浦で一泊でした。高等科は天の橋立や四国へ行きました。六年を卒業すると女は家庭学校へ行き家事や裁縫を、男の子は多くは奉公に出たものでした。この頃の生徒数は高等科合せて四百人程の様に憶えています。

通学路は西ノ庄あたりからは学校迄何もなく野原で草の茂った細い曲りくねった道を一列になって歩いて行きました。今と違ってまっすぐの道でないので一年生にはしんどいでした。東海道線ガード下を出た所に貨物の引込線があつて、時々貨物列車が止っていて通学のさまたげとなりました。貨車の下を腹ばいになってくぐりぬけて通った事もありました。今から思えばおそろしいことでした。今のようにプールはなく天神川で男

も女も泳ぎました。高学年になると桂川の鉄橋下の深い所へ行きました。

大正時代になって世の中は少しずつ洋風化して来ましたが、まだ一般家庭にまでは及びませんでした。和服に前だれをかけて草履か下駄ばき教室内でははだしかわら草履でした。日本電池の前身奥村電氣が出来て他校から転入生がありました。その中の一人が黒の洋服を着ていた。子供心に大変めづらしく又羨ましくもありました。運動会にはネルのPATCHをはいていましたが、時半ズボンを買ってもらいました。もう嬉しくて嬉しくて仕方がありません。お弁当もおかずは生姜か梅干、味淋干などは御馳走の方で、魚やたらこなどはなか／＼入れてもらえませんでした。だからお弁当箱がすぐ穴があく、この当時は金持であつても決して贅沢はさせませんでした。

運動場もあまり広くなく運動会の時一周八〇米ぐらいなので観覧席がないので東の田んぼの用水の上に材木や板をかりて観覧席を作

ったりもした。第一次世界大戦終了の時夜、提灯行列に出て学区内を歩きました。桂大橋を渡った所へ散髪に行った。家並が並んでいて東京とはこんな所かなと想像したこともありました。三年生の時石山へ遠足に行きました。生まれて始めて汽車にのれるのが嬉しくて嬉しくて……汽車は今のようではなく座席毎に入口がついていました。トンネルに入った時暗闇の中で頭のたゞき合いをしたものでした。修学旅行はやはり伊勢。四時頃家を出て京都駅まで歩きました。

学校の組は一学年一学級、高等科は一、二年で一組で計七級先生は八名だった。校長先生は修身の授業を受もつておられた。

奥村電機が出来て生徒数が増え、一組七十人から八十人ぐらいになって級を二つに分けねばならないようになりました。

昭和になり本館左手に奉安殿が出来て生徒は登下校の際必ず頭を下げて通つたものでした。昭和七年古い講堂が解体され新しい立派な講堂が出来た。建つて間もな

く未曾有ともいわれる風速六〇米の室戸台風にあいました。凄く猛威をふるった台風にも耐えて避難に駆け込んだ職員生徒の生命を守ってくれました。あの時講堂へ避難した直後北校舎が大音響と共に倒壊しました。泣き叫ぶ者恐怖におののく者不安な状態の中で風のおさまるのを待つてこわれた校舎を見て我が家は如何と走つて帰りました。今でも校長先生が風雨の中手を大きく振つて教室にいてはいけない早く出ると合図していられた姿が目につかびます。

運動会も盛んで他校からも招待選手が来しました。本校からも他校へ対抗試合に行つてもらつてきた優勝旗が会議室にずらりと並んでいました。その時こんな歌が流行しました。「吉祥院の——運動の選手に勝てるなら、水がさかさまに流れても、来年あつたら又来いよ」。昭和十二年七月支那事変が勃発、満州事変について軍国主義の色がばつ／＼子供にも浸透してきました。贅沢は敵だを合言葉に苦しい生活は十六年十二月八日の第二次世界大戦と共に急激に進み

ました。尋常高等小学校から国民学校と改まり、教科書も変りました。又評価も甲乙丙より優良可となりました。戦争が激しくなるにつれ服装も決戦服にもんべ姿、肩には非常袋なる物(中身は頭巾三角巾等救急用品)をかけて登校しました。避難訓練、バケツリレー、軍歌練習、出征兵士英霊の送迎に明けくれました。大詔奉戴日には吉祥院天満宮へ武運長久を祈り、運動会も時代を反映して剣道、薙刀、衛生看護リレーといったものでした。今の井ノ口公園も天神さんの公園も生徒が芋畑を作つていました。修学旅行も十八年は日帰り旅行でその後は中止されました。

物資はすべて配給制となり運動靴も手に入らず学校ではハダシの生活でした。十九年乏しい食生活の中で学校給食が始まりました。当時は雑炊、ぬか入りのパン豆かす御飯油とねぎがこぼれたほどの味噌汁の献立でした。二十年には本土決戦に備えて学童疎開があり縁故疎開出来ない者は集団で丹波の方へ両親と別れていきました。

高等科の生徒は学徒動員として国鉄、電話通信局工場で働きました。又出征家族の農家へ手伝に行ったりもしました。

二十年八月十五日終戦を迎え今までの軍事教育から一変し民主主義教育と大きく変貌しました。しかし教科書は使えず先生も昨日にうって変わった教育にとまどいがありました。新しい教科書は新聞紙みたいな大きな紙を頁数に合わせて切って使いそれも一度に全部出来ないので第一分冊第二分冊ととじ合せて作りしました。

修身がなくなり、地理歴史が大きく変わりローマ字が国語の一部として加わりました。進駐軍放物質による給食も行われましたが、脱脂乳や少し変質しかけたものもあつたりして今とは考えも及ばないものでした。

少し落ちついてくると発表会や運動会も盛大に行われましたが新しい試みとして討論会がよく行われ、自由に発言する事を教えられた。評価も五段階となり5・4・3・2・1で表されました。

社会の発展に伴ない純農村地帯

が工業地帯へと変わり国道も通じ交通量がとみに多くなりました。子供も集団登校となって特に一七一号線は親が交替で立って旗を振らないと渡れない状態となりました。その後足踏式信号が出来ましたが、車の量には勝てず困っている時に一会社々長の善意の寄贈で陸橋が出来上がり「善意の橋」と名付けられ京都では陸橋第一号です。渡り初めの当日南側の空地で洛南中学校ブラスバンド演奏もあり盛大に行われ親も子も安心して渡れるようになりました。又児童の増加と老朽で新しい鉄筋の校舎が出来ました。新しい教室には六年になったら入れるのだと皆胸をわく／＼させていたものでした。

生徒自治のたてまえから学級委員の集りである「連絡会」が作られました。学年学級の問題を学校全体の問題として考える橋渡しの場です。又役員はクラスの支持を得て立候補制にした事もあり、ポスターを書いたり演説を皆の前でやったりもした。

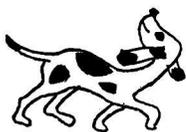
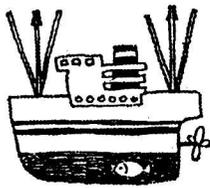
何と言っても一番うれしかったのは三十八年プールの出来た事で

す。私達の学校のプールに足を入れたあの一瞬の感激は何と言葉に表したらいいのか、その場にいた者でないとわからない喜びでした。

四十一年は校長先生、児童のなぐなられた事、集団赤痢発生と何となく悪い事がありました。

四十五年千里丘陵で万国博が行われ、五年六年の生徒が見学しました。まだみぬ地球の裏側の国々の館をまわり、様子を思いうかべていつの日かその国に行く事を夢にえがいた事でしょう。

人口の増加に伴い学習発表会も二回に分けて行われています。いよ／＼分校問題が大きくクローズアップされて来た現在であります。



善意の橋渡り初め（市内陸橋の第一号となる）

百周年記念児童作文

きゅうしょくのこと

一ねん
てらじま ちえこ

わたしの学校は、とても とても
ひろいです。まいごに なる
ほど ひろいです。わたしは、き
ゆうしょくが すきです。ハンバ
ーグや いろんなものが できま
す。パンは、いつも できま
す。ながい パンや しょくパン
や いろんな パンが できま
す。

つりや

一ねん
きたがわ はるひこ

ぼくが がっこうに はいろう
とおもたら かごのなかに こ
とりが いた。おねえさんが え
さを やっていた。ぼくも はい
ってみたいなあ。ほんで えさを
やってみたいなあ。とおもった。

きゅうしょくがかり

一ねん
ますだ たまみ

わたしは、二がっきに きゅう
しょくがかりになりました。わた
しは りょうりを はこぶのが
大すきです。だから きゅうしょ
くのじかんが、とても うれしか
ったです。一がっきも おかずに
かりになりたかったけど じゃん
けんでまけて なれませんでした
た。二がっきは じゃんけん
かてたし よかったです。

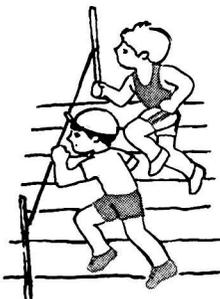
きゅうしょくのちやいむがなる
と えぶろんをきて、ぼうしをか
ぶります。先生が 「ももを、一
つずついれて。」といわはりました。
た。わたしは 「おいしそや
な。」とおもいながら いれまし
た。
きゅうしょくが、一がっきより、
ずっと たのしいです。

小うんどう会

二年 岸 本 美 徳

ぼくは 五月に
小うんどう会に出た。

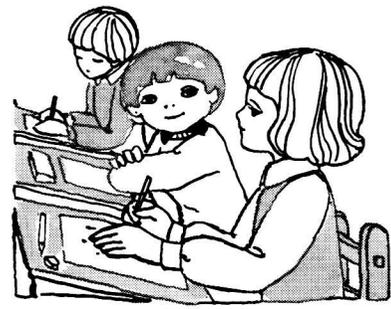
ぼくが出るのは 走りだけだ
ものすごく じしんがあつた
サッポーターを はめたり
はだして走ったりして まった。
「パーン。」
と てっぽうがなって
ぼくは けんめいに かおを
ふつて おもいきり走った。
はじめのうちは まけていたけど
カーブのところでは おいついた
さいしゅう 直せんで
みんなを ぬかして
一とうに なった。
ぼくは うれしかった
大うんどう会には また
せんしゅりれいに出て
一いに なりたい



さんかん日

二年 ふくだ まきよ

きょうは さんかん日
わたしの おかあさん
ともだちの おかあさん
わたしの うしろに立っている
わたしが 手をあげて
あっていると につこり
手をあげて あっていないと
ふつくりする おかあさん
家にいるとき さんかん日るとき
と ぜんぜんちがう
やさしいときの かお
こわいときの かお
さんかん日るときに
そのかおが見られる



吉祥院小学校のむかし

三年 山下 正洋

毎日通っている吉祥院小学校が今年でちょうど、そう立百周年をむかえて うれしいなあ と思います。七十八才になるおばあちゃんに聞いたら、むかしは、きいぐん吉祥院村と聞いていたそうです。わらざうりをはいて、着物を着てふろしきに本とノートのかわりに石ばんをつつんで通ったそうです。

むかしにくらべると人口も多くなり、工場や家がたくさんたち、空気もわるく自動車も多く通り通学には、むかしのほうがよかつたなあと思います。

その吉祥院小学校も昭和九年の室戸台風で北の校舎がたおれましたが、一人もけが人は なかったという事です。毎月二十五日には、全校せいとが天まんぐうへおまいりしたそうです。おとうさんの小学校の記念しゃしんを見せてもらったら、みんなはだしで、まるぼうずのすがたがうつつていました。ぼくは ふしぎに思つて、おとうさんにたずねると、戦そう

のため一ばんくるしい時だったといわれました。そのくるしい戦そうも終り今は大きなりっぱな校舎もたちその中で勉強や運動ができるぼくたちは、ほんとうにしあわせだなあと思います。

むかしの学校

三年 小原 長 二

むかし、吉祥院村立じんじょう小学校とよんでいました。学校の前は一面広い田んぼにおおわれていました。校しゃは北がわだけで職員室をあわせて六教室と小さな講堂だけでした。門の南がわには村役場があつてその横に小ずかいさんの家があつたそうです。小ずかいさんの子供もいっしょに学校へ行つていたそうです。おじいさんの義む教育は四年生までで一年あとから六年間になったということです。一時間めが終ると小ずかいさんがひもをひっぱつてりんをならします。校長先生のほかに、先生が四人しかいません。生との数は、西のしょうから、しままでの間ぜんぶで百三十人ぐらいだったそうです。

おばあさんの学校

四年 九里 朋子

これは、私のおばあちゃんの学校の事です。

大正二年のころの学校は、きものに、えび茶色の長いかまをはき、げたやせきで通学したそうです。また、入学式やいろいろな記念式には、黒いもんのついたきものを着て行ったとの事です。わたしたちは、ミニスカートやパントロンなどをはいて、学校に通っています。昔の人は、動きにくかつたんやなあ。体育なんか、どうしてやつたはったんやろなあ。

毎月、一日と十五日の朝礼には校長先生が教育ちよく語を読まれたそうです。教育ちよく語つてなんだろうと思ひ、父に聞くと、「学問の教えについての天皇のこゝとばだよ。でも、意味はよくわからなかつた。」と教えてくれました。

校しゃも、今のようには鉄きんなんがなく、木ぞうのたてもので、教科書は、白と黒で、しゃしんにはいろいろな色はありませんでした。わたしたちが楽しみにしてい

る給食は、むかしはなく、遠い人は、おべんとうをもつてきて食べました。かばんもきれで作つたものでかたからさげるのです。男も女もおかあさんやおばあさんに作つてもらつたもので、たいせつに使つたそうです。

また、わたしがいちばんびつくりしたのは、勉強の事です。今なら、一人一人の性格をのばす勉強を教へてもらいますが、昔は、国のため勉強をしたそうです。クラスも、一・二年は男女いっしょですが、三年からは、男女別になるとの事です。どうして、分けたのかなあ。

おばあさんから昔の学校の話しを聞いて、今の学校とたいぶちがうのでびつくりしてしまいました。「昔の子供は、元気に勉強したよ。」とおばあさんは、思い出すように目を細めておっしゃいました。

今のわたしたちの学校は、せつびがよく、のびのびと勉強できるのだから、昔の人に負けないようにがんばらうと思います。

将来の吉祥院校

五年 石塚 憲

いまの学校から見ると、未来の学校は、もっと近い所にあつてほしい。ぼくは、片道二千米歩いて通っている。通う時、少し重い荷物を持つとじつにこたえる。通う時いつもスクールバスがあつたらなあ、近くに学校があつたらなあ、と、考える。

理科室のほかに自由な実験室がほしい。理科実験でなっとくできないことがあるからだ。そうすればよけいおもしろく勉強できると思う。また夏あつた時、クーラーを入れてひまな夏休みをみじかくして学校へ行けばいいと思う。

ぼくとしては『近い所に学校がある』これが一番の願いである。できたら先生を二十人に一人ぐらいにしてほしい。そして先生の声はつきり聞えるマイクもほしい。

運動場を広くしたい。
教室を広くして空間がほしい。
給食もてき当な量にして おいしくしたい。
それからせいけつにしたい。運

動ぐつそのまま教室にはいると

ぐれが落ちるし、すみにたまるとなかなかとれない。上ぐつ下ぐつとわけたい。トイレをきれいにしてほしい。そしてそうじは、週一回のそうじにしてほしい。

各教室に一台テレビをほしい。先生がけんめいになってする話よりも、テレビのほうが理解しやすい。またそのほうが楽しい。

体育倉庫の中にもっとたくさん運動具がほしい。休み時間本のかり出しみたいにしてかり出すとなくしたらすぐわかるからなくなりにくい。まただれがいためたかわかるから長持ちする。

ほかに、遊び道具がほしい。回転つりわ、二人回せんとう、などのようなものがある。

ほかに、つき山をもっと改良して自然道があればいいと思う。

校舎は、どんなにもろいのもせいできつできれいな方がいい。

いろいろと、たくさん言いたいことがあるけど、あまり言うとうごらく教室になるかもしれない。こんな書きたいけれど、ぜったいにやってほしいと思う。

未来の学校

六年 浜松 宏

学校には、クラスがない。一人一へや。

先生は、一人もいない。

勉強するときは、テレビのようなものを見る。

そのテレビが、問題を出したり、教えたりする。

テストの時は、だいたい番号式、時々、文を書いたりする。

正答はコンピューターがだし、つう知ばもコンピューターがだす。これがぼくの考えた未来の学校。

六年 西村 弘子

緑の木々が青々としげり

太陽の光をいっぱいうけて

子ども達はあせを流して遊ぶ。

ゆうゆうと広い場所で……

私達のころはせまかったなあ。

場所の取り合いもあつたなあ。

細見さんや武田さん達とゴム飛び

もしたね。

男の人達も寄ってきたり……

みんなでドッチボールもしたね。

せまくて混雑したそんな運動場で

いっしんに遊んだっけ。

六年 安田 敬子

この大きな学校。広い学校。

いつまでも、このままでいてほしい。

けれど、大きな愛を持って未来にはばたいておくれ。

未来にたちむかって、すばらしい友情をはぐくんでおくれ。

六年 狩野 千鶴子

未来の学校。うーん。どんなになるだろう。

きっと、ほかの学校にも、しあわせをあげられる学校になればいい。

六年 酒井 恵子

未来の学校は

自然の中の学校。

公害なんてない。

みなまた病も、

四日市ぜんそくも。

あるのは若草のにおい、

小鳥のさえずり、

そして、太陽の光り。

虫や草花たちとともに、

わたしたちも学ぶ。

大気お染のない大空の下で。

今、ぼくは、百年後の吉祥院小学校行きのキップを持って、タイムマシンの中にいる。

スー、ファッ、ついた。

あたりをみまわすと、スポンジの校庭だ。

校舎に入ろうとして、階段に足をふみ入れた。

スーッ、階段が 動いた。

教室につくと、ロボットの先生がいた。

「マタチコクカ。」

「はあっ、科学はこわいやあ。」

夏は冷房、冬は暖房

なんと とうかな気分だ。

未来に生まれてくる子供は

しあわせだらうなあ。

ぼくも、

未来に、生まれてきたかった。

なんでもかんでも

全自動、すべて機械化

すばらしいだろう。

でも、勉強だけは

今のままだろう。

くやしいけれど。

編集後記

吉祥院百年という、この好機を生かして、是非百年史をまとめた、「記念事業」として「百周年記念誌」を、これは期せずしてわきあがった声でした。

早速、記念誌委員が選出され、慎重に協議の末、学校編と学区編に分けて各種文献を参考に正確を期して、原稿を募集する事に一致、郷土と学校の百年の歩みを、平易に青少年の参考にも出来る様に配慮して編集しました。

しかしながら、明治五年創立以来からの記録の喪失、………学校沿革史の巻頭言に大正四年十一月、磯部校長、識すとして、本校創立以来こゝに四十幾星霜、未だ沿革史として統一せるものを見ず甚だ遺憾とす、さきに鎌田、荒木両校長時代に於いては、沿革史編纂資料となるものを残すと雖も、それ以前に於いては一もよるべきものなし、幸いに御大典に際し本校記念事業の一として之が編纂を企図した、明治四十年以前に於ては日誌というものなきを以つ

て詳細なる記録を得る事なし。

と、本校における史的資料は著しく不足という事もある、気はあせれど仕事ははかどらず、二月足らずの期間にまとめねばならない時間的な制限、そこでページ数の多少はともかく、出来る限り、必要にして欠く事のできない資料のみを掲げるようにしました。不十分な小冊子ながら吉祥院小学校々々各位の御参考の一助にでもなればと、記念誌委員一同夜毎く帰宅時刻をも忘れて、やっと発刊にこぎつけた次第です。

記念誌委員諸氏をはじめ、学校職員、校下各位の絶大なる御協力と御援助を賜りました事、こゝに厚く御礼申しあげます。

尚、印刷について種々御配慮をいただいた眞興社印刷にはこの誌面を借り厚く御礼申しあげます。

(K)



参考資料として次の文献を使用しました。

- 学校沿革史(吉祥院小学校)
- 京都の歴史(京都市編)
- 格致百年史
- 仁和百周年記念誌
- 大内校百年史
- 上鳥羽校百年史
- 京都府教育史
- 京都府史(上・下)
- 京都府紀伊郡誌
- 吉祥院村公報
- 吉祥院時報
- その他、古文書、古地図、図面

